

褚遂良
楷書千字文

碑法帖拾遺 ③

木雞

木雞室

伊藤 滋



千字文の巻頭



永徽4年の款記

書の手本として智永禪師の筆とされる『真草千字文』は多くの人に学ばれてきた。ここに示した『楷書千字文』は、褚遂良の書として伝えられている。清朝の道光十年（1830）に那彦成の編纂により作られた『蓮池書院法帖』（六卷）の第一冊目に収められている。この『蓮池書院法帖』の原石は、今も河北省保定の蓮池書院の回廊の壁にはめ込まれている。褚遂良の楷書と伝えられているが、確かな根拠はない。法

帖の巻末に「永徽四年秋八月二十六日中書令褚遂良奉為燕國于公書」とあるが、後世の人が褚遂良が書いたようにして制作したものとされる。前回の『房玄齡碑』や『雁塔聖教序碑』に比べてやや直線的であり、しっとりとした線の抑揚に欠ける点があるが、褚遂良の楷書の特徴を美に好く表現している。褚遂良の書法を学ぶ上で参考になる作品であろう。



雁塔聖教序碑
と
千字文
との比較

雁塔聖教序碑



千字文



85%縮小

書道芸術院 第1回展 出品作家

完



「RIN」1983年 全紙



「Myo」1982年 全紙

宇野雪村

明治45年浜坂町二日市に生まれる。

昭和7年除隊、同年9月神戸市道場小学校に勤務、当時月1回又玄社に指導の為、神戸に来ていた上田桑鳩に出会い師事する。

昭和15年上京を決意、東京渋谷にあった上田桑鳩の「友石軒」へ毎日顔を出す様になり、上田桑鳩、小川瓦木等と「奎星会」を結成、次第に師の精神を受け継いでいく。

昭和23年書道芸術院創立には関わらなかつたが、第1回展には委員として名を連ね第2回展・第3回展は、審査員として活躍する。

昭和29年日展審査員となつたが、後に脱退「奎星展」「毎日書道展」「玄美展」等に活躍の場を移す。その後、上田桑鳩の後を継ぎ「奎星会」の代表となり、「玄美社」を主宰する。

上田桑鳩に続いて日展を脱退してからはさらに、大胆に、かつ個性的な作品を次々と発表、活動の場もニューヨーク、欧米、中国等海外へも広がっていくことになる。

昭和41年ホアン・ミロと会っている。どんな会話のやりとりがあつたのか興味は尽きない。

平成7年83才で没す。

宇野雪村は常に「文字という約束の上に約束をこえた美がある」という理念を樹立した作家でもあり、戦後の前衛書道の草わける的存在として、現代書の創造を試み、実現した功績は大きいといえよう。

平成12年には氏の業績を顕彰し「宇野雪村書道展」設立、今なお続いている。

著書に「古墨」「法帖事典」「中国書道史」「必携文房古玩事典」等多数ある。(大平鉄男記)

書のひろば

理事長 恩地春洋

「書の甲子園」の成功

国際高校生選抜書展

去る二月十日、毎日大阪本社オーバルホールで、第16回国際高校生選抜書展の表彰式、揮毫会、祝賀会が催され全国から、書を愛する高校生と指導者が集まった。

本年は、全国優勝校は、岡山県、明誠学院高等学校（指導者小竹正高先生）に輝いた。

以下、各地区優勝校、優秀校など、選抜高校野球大会とほぼ同様の組織で運営されている。審査は前年九月に行なわれる。書展は二月、選抜野球を前にして大阪市立美術館で開催され、文字通り「書の甲子園」として全国高校生書のメッカとなっている。

本年の表彰式ほかの司会、進行などは、全て、高校生によって進められたと聞いている。（第1回から運営に当たった私も今年は、書道芸術院展研究会のため、止むなく欠席した）

・本年は新しく、選抜野球入場式のプラカードも本展の地区代表校の生徒が揮毫するようになった。これはNHKテレビでも準備の練習風景が紹介され

た。

・先年、三島高校の作品制作風景が日本テレビ系で放映され話題を呼んだことがあった。

・漫画雑誌に「とめ、はね」と題して「書の甲子園」の見出しのついた話が連載されていると聞く。

・また、高校のある教科書には、盛況の大阪市立美術館の風景が大きく掲載されていた。

「書の甲子園」は、今やすっかり関西で育ち、日本全国の高校生の最高の目標として定着した。最初からかわった一人として、簡単に経過や感想を記しておく。

◇発端

・毎日大阪本社創立一二〇周年、関西空港開港記念としての企画された。

・毎日書道会で高校生書展開催が議題

にのぼったが、反対意見も多し中で当時の戸田提山、種谷扇舟理事と小野専務理事は推進派で苦勞なさったと聞く。外野で高校展賛成の有志が大阪に集まり、バックアップした。

野崎幽谷、小森秀雲、上羅芝山、菅野清峯、小伏竹村らと共に手弁当でもよいからやろうと氣勢をあげたこともあった。

・基本方針
1、広く学校教育の一環として書道を推進する。毎日展に直結はしない。

2、国際展とする。漢字文化圏は元より、自国語の表現も認める。来

日留学生も対象とする。

3、出品料は無料とする。

この方針は、かたくなに守って現在まで続けられた。「出品料無料」も財団であったから出来たこと。高校の全国組織に支援いただく予定だったが失敗、結局、最初は毎日系の塾組織の支援が強かった。次第に学校のクラブ指導に浸透していった。高校のクラブ活動が盛んになるにつれて、書道教育に熱心な学校が次々に増え、有名校も生まれた。同時に書道教育の優れた指導者も育ってきた。留学生の優秀な作品も次々に生まれた。

・ある年から「ひと」欄（全国版）に全国優勝校の指導者が取りあげられたことも普及に効果があったと思われる。

・公正、公平な審査

最初の方針通り、偏することなく、よい作品を選ぶ審査方法を確立したと。全ての出品作品を公平に扱い、所属や出品点数に関係なく、上位に入賞できる仕組みになっている。

・そして、今ひとつ忘れてならないことは、毎日新聞社、毎日書道会、特に大阪本社の全面的な協力である。

・小池唯夫社長の激励
第1回展から、毎年、表彰式に出席し、迫田大阪代表と共に激励して頂いた。小野富次、丸谷巨、寺田健一専務理事、林俊三、井上修身関西支部長の情熱も忘れることはできない。

本展が関西で成長し、発展してきたのも、先見性のある企画を立案してく

れた人たち、それを推進してくれた人々の尽力の賜である。

三月、春の選抜野球のプラカードの行進は、「書の甲子園」の成功を象徴するものと楽しみにしている。

全国優勝

岡山県・明誠学院高等学校



（向かって左端）小竹正高先生

毎日展昇格者補選

かな部

会員 安田啓子（規定による）

会友 藤村昌子（ ）

近代詩文書部

会友 市川柳苑（ ）

前衛書部

会友 佐々木蓮峰（ ）

現代詩文書 (六)

広瀬舟雲

近年は、自作の詩文から少々離れ、

「文学作品の内容と書作品の書表現のイメージの融合」をテーマとし、作家によって練られたことばの響きの虜となり、文学作品に題材を求めるようになりました。私の「武蔵野シリーズ」の幕開けです。初めは、「武蔵野」と関係のある(あった)詩人・歌人・小説家などの文章を題材として揮毫しましたが、現在は、国木田独歩の小説「武蔵野」中から文章を選んで揮毫しています。明治時代、独歩の歩いた武蔵野の道を実際に散歩しながら現在と比較しつつ「武蔵野」の風景にどっぷり浸かっています。

一つの小説からどれだけの文や文章を見つけ出せ、それを書として料理できるか。挑んでいます。おいしいものとなるか。まづいものとなるか判りませんが、研究成果をまとめてみたいと考えています。

31歳の時、師の種谷扇舟先生から、「審査員になったら、いつまでも(毎日展で)毎日賞を狙うような作品を書いてはだめだ。普通に書いて線で勝負しなさい。」といわれたことが忘れられません。常に自戒しつつ、前に進む努力を怠らないことが、師への恩返しであり、さらに二十一世紀の新しい書の創造へつながりうると信じています。



第59回毎日書道展

国木田独歩「武蔵野」

広瀬舟雲書

21世紀の書

—私の主張—

前衛書 (六)

阿部蕙芳

私の主張の最終回に当って、改めて自分自身の前衛書への姿勢に目を向け、分析したいと思いましたが、どの部門においても同じことが



言えると思いますが、芸術として認められる為には、多くの作家が情熱を持って育つことが必要であると思います。

その湧き上っていく情熱こそ、すばらしい作家を輩出させ、作品の評価を上げる事が出来、初めて芸術として生き残ることとなります。

自然な感情を大切に。面白いと感じたことをどンドンと行う。新しい体験を増やす。自分の目的をはっきりさせておく。

感動を表現する選択肢を増やす。これらの事が感性を磨く事へと繋がっていく。

国立新美術館での初めての毎日展の作品です。新たな気持ちで、力強く表現したいと思えました。

題名「芽生え」

阿部蕙芳書

176×85cm

〈尚〉



香川倫子

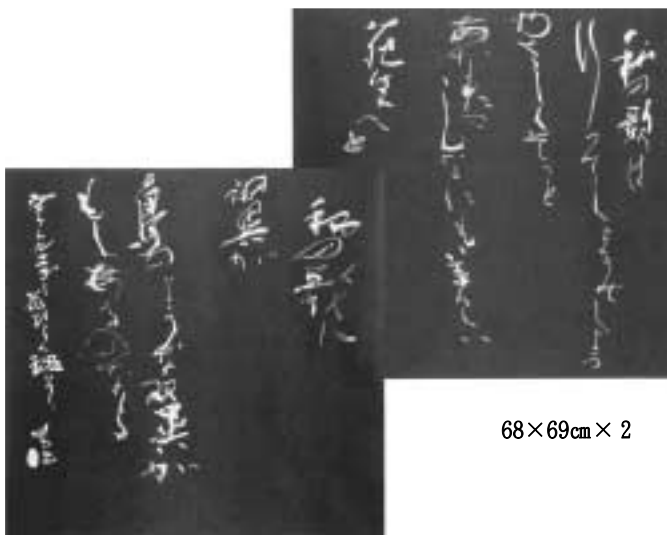
105.5×136cm



下谷洋子

〈探梅の寒さばかりを… (正木ゆう子)〉

67×139cm



飯高和子

68×69cm×2

〈私の歌は行ってしまおうでしょう…以下略
(ヴィクトル・ユゴー「吉田加南子訳」)〉

現代女流書100人展

併催 現代女流書新進作家展

— 第59回毎日書道展会員賞受賞作家による —

会期 平成20年2月7日(木)～13日(水)
会場 東京渋谷・東急百貨店本店

7階特設会場(100人展)

8階工芸ギャラリー(新進作家展)

主催 毎日新聞社

後援 財毎日書道会

石井明子



〈山の端の霞むけしきに… (西行)〉 71×121cm

〈餘〉



小林琴水

135×105.5cm

最首翠風



〈披雲見天眼〉 85×125cm

砂本杏花



〈風に鳴る… (花谷和子)〉 104×135cm

〈美しい聲迎陵頻伽翔ける〉 自作



森舞扇

170×85cm

〈潮鳴りの岬や嘶く寒立馬〉
(川上孝)



齊藤理舟

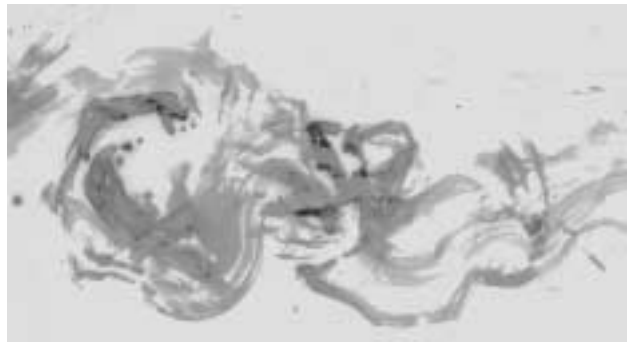
180×85cm

〈深〉



小伏小扇

136×105cm



太田蓮紅

〈心——きらめき——〉

77×140cm

〈幽齋桐葉露瀉 花朝鳥語四聞〉

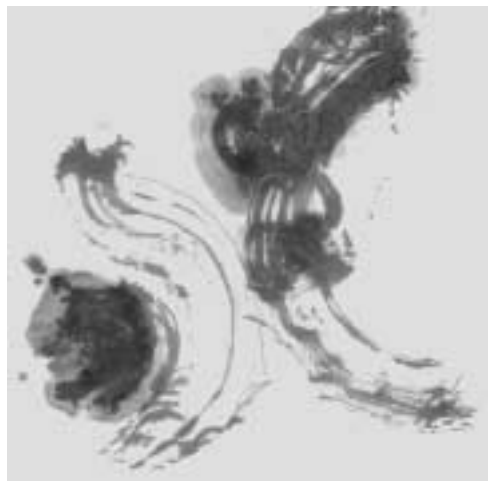


半田藤扇

178×55cm

新進作家展

〈煌〉



大井美津江

120×120cm

〈解説〉

雁塔聖教序を古人は、「美しい孔雀が仏像の前に立って、羽を広げたようだ」、「金の屏風に花が散りかかるようだ」などとたとえています。ゆったりと暢びているかと思えば、逆に縮む力を備え、ピリッとしまつて緊張しているかと思えば、包容力のある

おだやかさも見せています。行草書のもつ抒情性を醸しながらも、やはり唐代の楷書としての格調の高さは、筆意の中にあらわれています。

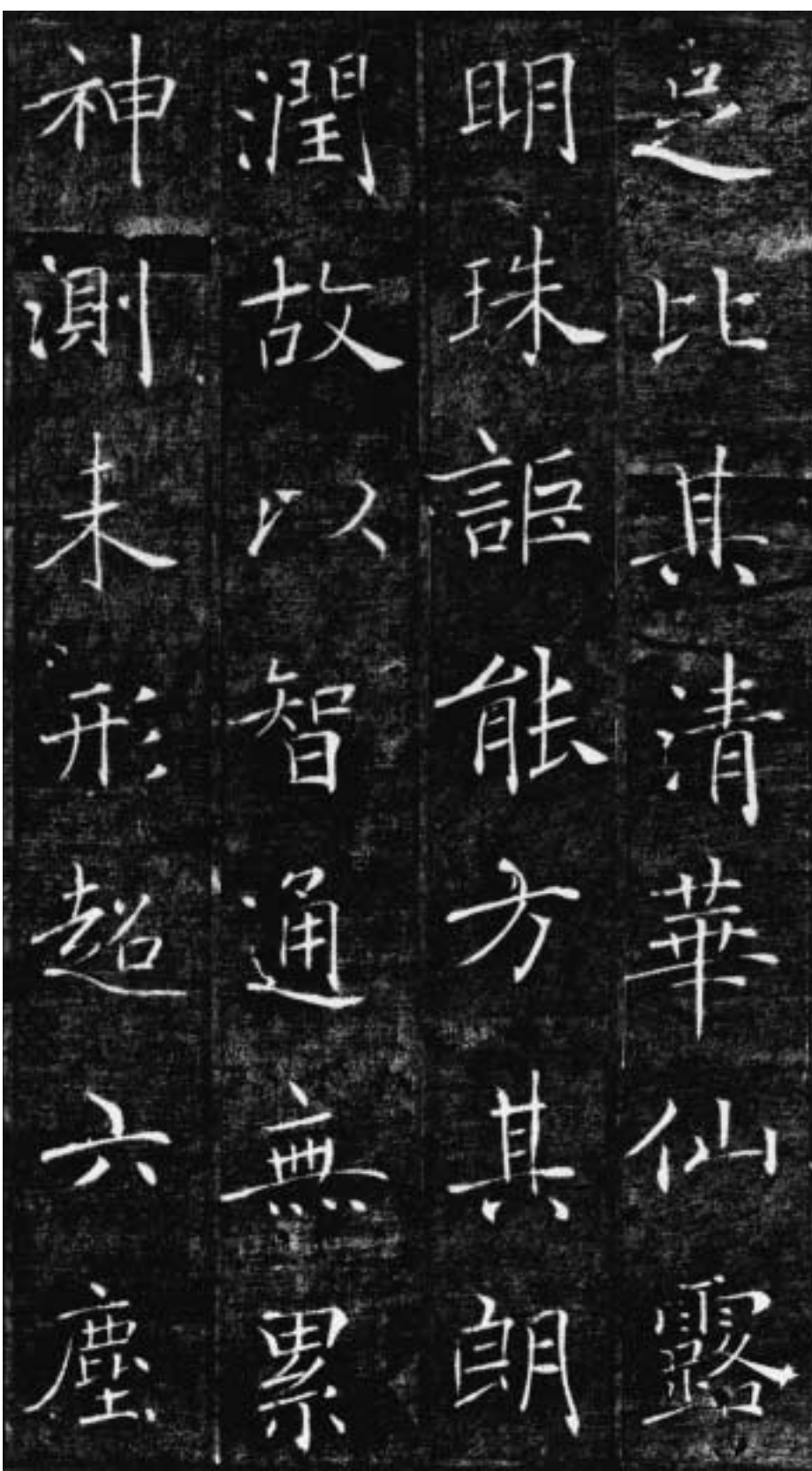
(昨年末、千葉県立美術館「種舎扇舟展」に於、扇舟先生が56歳の時に全臨された屏風作が記憶にある事を思います。)(編集部)

用紙 半紙普通判

|| 注 ||

漢字研究部競書作品は、左の法帖の中から、何文字臨書してもよい。(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
〇〇臨
(押印のみ可)

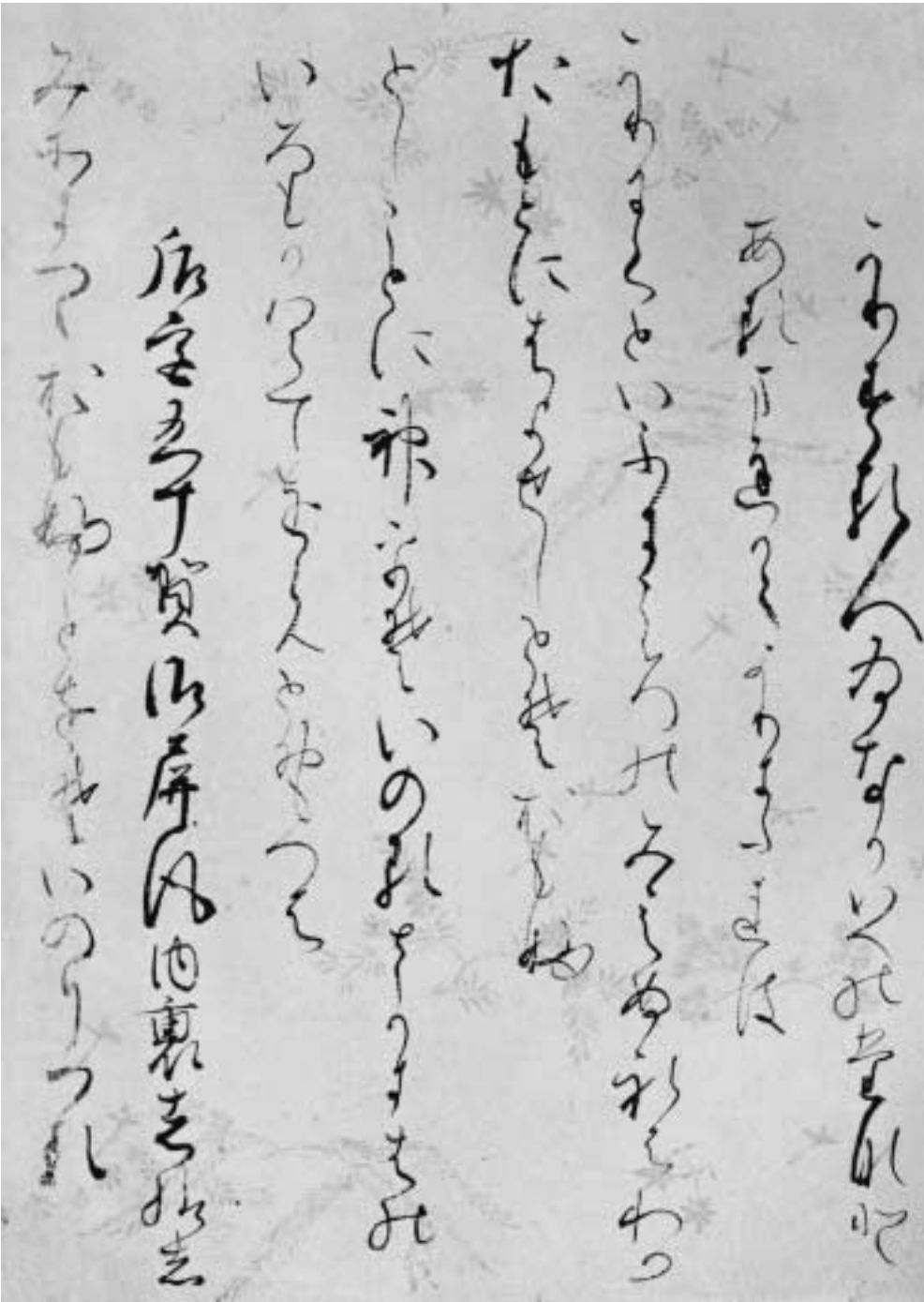


足比其清華。仙露明珠。詎能方其朗潤。故以智通無累。神測未形。超六塵。

用紙・半紙普通判(料紙可)

〈たて長に使用〉

・別紙を裁断して貼付は不可。
※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)



〈解説〉

伊勢集の料紙の手法は、種々の染め紙を、切り継ぎや破り継ぎの技法でつなぎ、さらに金銀泥で下絵を描く、金銀の箔、砂子をちりばめるなど三十六人家集の中では、最も豪華絢爛である。

癖のない筆法のため、万人に好感を持たれる上代様の典型の姿を示している。

〈よみ〉

か(可)り(利)す(春)る(類)人
るなか(可)いへの(能)た(堂)
な(那)ど(登)
ある(類)ま(万)ぢ(運)か(可)
く(久)より(利)き(支)た(多)
れ(連)ば
か(可)り(利)に(尔)く(久)と
いふに(尔)ころの(能)みえ
ぬれ(礼)ば(者)わが(可)たも
とには(者)よせじとぞ(楚)お
(於)もふ(婦)
としごとを(平)ぞ(楚)い
のる(類)さか(可)き(支)ば
(者)の(能)
いろもか(可)は(八)らでをら
んとおもへば(者)
后宮五十賀御屏風内裏し
(志)給し(志)
みそ(所)ぎ(支)つゝお(於)も
ふ(婦)ことぞぞ(楚)いのりつ
(類) (編集部)

※右の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

漢字規定 初段以上 【四月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

最首翠風選書

習い方解説 (六)

最首翠風

花発玉樓春
(花発く玉楼の春)

正に花開く季節。線に深味を出すように珍毫筆を用いました。五文字の中にクライマックスを作るように計らい、その為に敢えてさりげない表現の文字を置きます。草書のスタイルは幾通りもありますから一字一字字典で調べて確認してください。多数ある草書体のどれを使うか、続く文字との関連は？ など苦心の中に楽しさが生まれる筈です。ただ、あまり特殊な草体は選ばない方が無難です。その見極めは日頃の臨書学習が解決してくれるでしょう。縮めくりとして再度金子鷗亭先生の言葉を掲げます。——つとめて師風を避け、古典の理法を現代に蘇生させ自分の作風を創造する。いわゆる創作を第一義として奨励している。——



花発玉樓春 よみ(花発く玉楼の春)

書体||自由

漢字規定 秀級以下 【四月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

稲垣小燕選書

百花為誰開
小燕
為

百花為誰開

よみ (百花誰が為にか開く)

書体 楷書

習い方解説 (六)

稲垣小燕

百花為誰開
(百花誰が為にか開く)

春が到来すれば花は先を競って咲くが一体誰の為に咲くのであろうか。花はその美しさで強烈に人々に呼びかけ引きつけている。書もまたそうありたいものだと切に願っています。

「為」の字形が難しいです。「誰」の偏と旁のバランスに注意してください。

かな規定 初段以上 【四月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判(料紙可) 黒川江偉子選書



よみ方 ゆふ桜(希)ふも(毛)む(无)か(可)しに(二)な(那)り(利)に(耳)け(介)り

創作

習い方解説 (六)

黒川 江偉子

夕ゆふざくら桜けふも昔むかしに成なりにけり

(小林 一茶)

蒼い夕闇のせまる中に桜が咲いている。春の一日も暮れてゆき、その今日が、すでに遠い昔のように思われてくる、という意。

紙面の左に大きく余白をとり、この句の余韻を出したいと構成しました。「ゆふ桜」とたっぶりの潤筆で墨継ぎなしで書き上げました。

創作する時、先づ自分の心に響く題材を選ぶ事が大事です。そして如何にその雰囲気が出せるか、構成、墨色、線質、余白、古典をふまえながら、斬新で、品性のある作品が出来るよう努力してください。地道な努力こそ「力」です。

かな規定 秀級以下 【四月二十日締めきり】 用紙 半紙タテ1½ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)

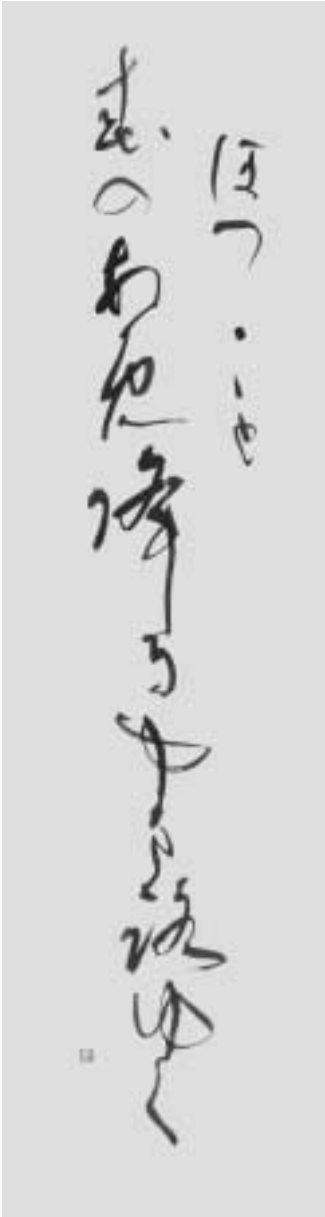


よみ方

ひとふるす(春)さとをいとひてこしか(可)ども
ならのみ(美)やこもなき(支)な(那)りけ(介)り(利)

かな条幅規定 【四月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可)

朝倉春江選書



よみ方 ほつとと春のあめ(免)降るや(也)ま(万)路ゆく(久)

創作

習い方解説 (三)

朝倉春江

ほつとと春の雨ふる山路行く

(高野素十)

「路は「ろ」の変体がなとして多く使われていますが、「ぢ」と使うこの場合は、区別するために点画のしっかりした文字にします。一行に数文字添える俳句の形式ですが、二行目の末尾はやや右に傾けてまとめるのが「かな」の基本です。

※たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【四月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

大野祥雲 選書



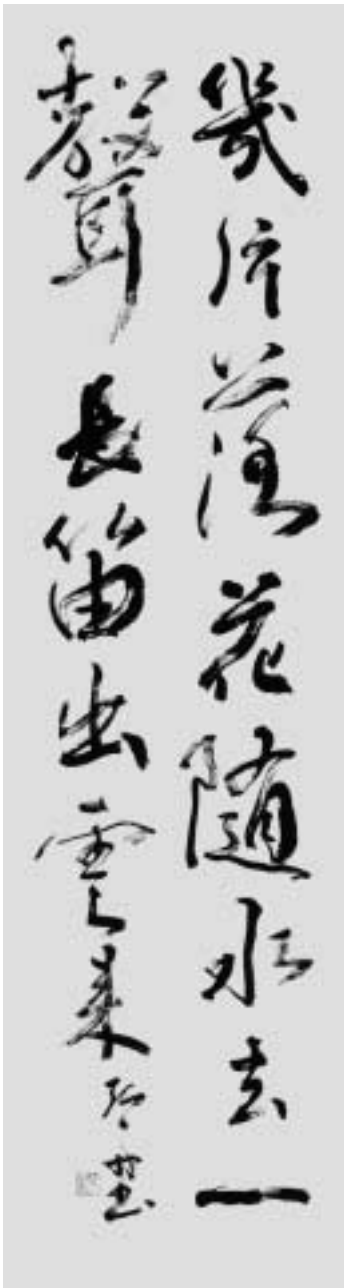
雨餘千疊暮山緑 花落一溪春水香
(雨余千疊暮山緑に 花落ち一溪春水香し)

書体||自由

漢字条幅課題文字訂正 前号(562号)

● 聲 ↓ ◎ 語 (予告は語、どちらも審査対象とする)

漢字条幅規定 秀級以下 【四月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 小川弘舟 選書



幾片落花隨水去 一聲長笛出雲來

(幾片の落花水に随って去り 一声の長笛雲を出でて来る)

書体||自由

習い方解説 (六)

大野祥雲

「雨のあとで、暮の山の緑はいくえにも重なっており、花が散って谷川の春の水が香ばしいばかりである。宋・陸游詩。」
春の息吹を感じるような動きのある作品を目指した。当然書体は動的な草書とし、文字や線の大小にもアクセントをつけてみた。全体として、調和がとれていればよいのだが…。

習い方解説 (六)

小川弘舟

今回で最後になりました。
今月は、顔真卿の行書を念頭に書きました。三稿には「祭姪稿」「祭伯父文稿」「争座位稿」がありますが、どれも大胆に変化に富んだ素晴らしい行書です。「線の太細、粘り、文字の大胆な大小」など作品づくりには欠かせない古典です、じっくり学んでください。

習い方解説 (六)

国境の長トンネルを抜けると雪国

であった。夜の底が白くなった。信号所

に汽車が止まった。向側の座席から

娘が立って来て、島村の前のガラス窓を

落した。雪の冷気が流れこんだ。

川端康成「雪国」より、書

最終回は、「雪国」の余りにも有名な冒頭、二段落を書きました。

原文は、「向側の座席……」からが二段落目ですが、紙面の関係で続けて書き、一段落の文としました。

一文毎に「……だ。」「……だ。」と言い切って終わっています。一文毎に情景が鮮かに浮かびます。情緒あふれる川端文学を味わいつつ、ペンを運びました。

漢字とかなをうまく調和させて自然で美しい文章に仕上げてみてください。今回、この機会を与えていただき改めて、日本文学のすばらしさ、行書で書くペン文字の難しさなど勉強させていただきました。感謝申し上げます。

※落款を入れ忘れないようにしてください。(落款は自分の名前を入れてください。)

用紙はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体は自由

訂正(上記手本)

予告し落とした

㊦ 一落した

どちらも審査対象とする

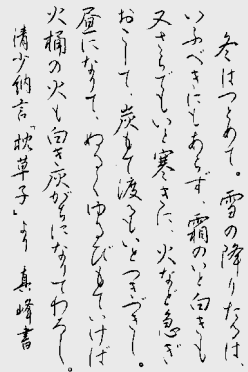
木一平作品 各部総評

NO. 560

ペン字部 師範 岡本 真峰

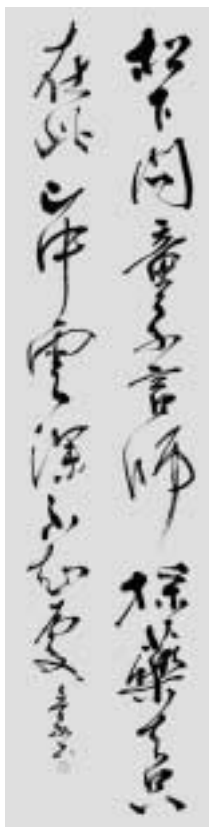
字形向勢で懐広く落ちつきある作。連綿の美しさに連筆の自然さがうかがわれ格調高い。

◎ペン字部総評 かな特有の連綿の美しい作品が大半を占め、ほっとします。連綿に不馴れな人も好機に模倣字書をどうぞ。(小扇評)



漢字条幅部 師範 阿部 恵泉
鋭い細線のリズムを行書連綿体に生かした爽快な作。潤濁のバランスもよくまとまりあり。

◎漢字条幅部総評 上級20字表現に苦勞した作多し。大小粗密の変化等更に工夫を。下級10文字はバランスに一考を。(大雲評)



現代詩文書部 特選 齋賀 裕美

詩情あふれる作風。墨色と線質がマッチして爽やかな風をイメージさせる。落款の位置絶妙なり。

◎現代詩文書部総評 もう少し楽しく書いてほしい。この時、詩意の表現を考える事。(素雪評)



かな条幅部 師範 天野あい子

俳句を一行にまとめる困難な課題を限りなく簡素化し、華のある作品にした表現力は見事です。



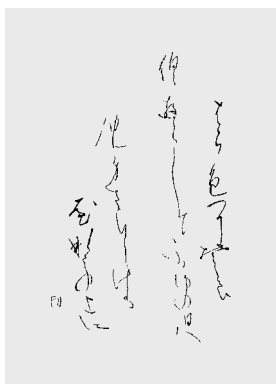
前衛書部 特選 村上 朱竹

S字に似た曲線による造形美に、作家の制作の意図が有り有りと滲み出ており、墨彩も大成功だ。

◎前衛書部総評 初顔の出品者が見られ爽やかな新風の息吹が感じられて誠に頼もしい。(芳仙評)



◎かな条幅部総評 上級者にはよい作品が目立ったが、全般に手本に捉われすぎた感じがした。ひや花の誤字が多く残念。(明子評)



漢字部 師範 安藤 華祥

濃墨で強く、しっかりと紙をつかんで悠々、渴筆も美しく、風格のある作となった。

◎漢字部総評 書法は技術だから用筆法や造形法も大切ですが技術ばかりに拘われていたら、コンピューターに敗けますよ。(春洋評)



かな部 師範 角田 悠香

手本に忠実に書いたものだが、文字の大小や太細などバランス絶妙、呼吸した線の躍動が見事です。

◎かな部総評 何回も述べていますが、小筆でも筆鋒の柔軟さを生かし弾力のある線を引いてください。形に囚われすぎです。(洋子評)

特別研究部
優秀作品(特選)

前衛書

〔波動〕
（四谷）星野成美



星野成美書

70×150cm

◆構成の成功、中央部の白が美しい。おだやかな春の海かと。紙面の大きさが生かされてよい。線の動きの少なさが評価を左右するかも。
（春洋評）

◆遠慮なく大きな筆で動き廻った元気を感ずる。表現には線の動きと墨色が影響しあうと思ふと少し墨色に生き生きとしたものが欲しい。
（倫子評）

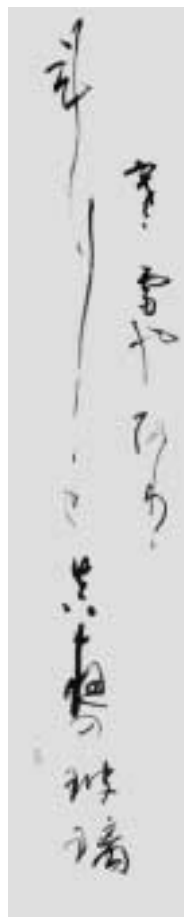
◆左右に大胆な筆致で量感ある表現は鮮烈な印象を与える。中央部の白がまぶしく輝いている。右下の濁りが、ややくどく感じる。
（大雲評）

◆まさに波動、左右の響きあい立体感を感じさせて、見る者を揺さぶる。集中した一瞬は作者の予期せぬものを含んでいるに違いない。
（明子評）

かな（大雲）

佐藤希雲

「寒雷やびりびりりと真夜の玻璃」



佐藤希雲書

◆繰り返しの表現を単調に陥らない工夫をし、二回めを中心に置いた大胆さは見事です。字形のよさと、筆力の強さに支えられた斬新な作品。
（明子評）
◆のびやかに書けたのはよい。かなも線の研究を第一としたい。「寒」の字形？「びりり」を書き分けたのはよいが構成は一段と工夫必要。
（春洋評）
◆筆と一体となつてよく纏めてある。かすれた線の生かし方が実に射りてて滲じまぬ紙の長所を使って長いたて線の表現が特に気をひく。
（倫子評）
◆長尺形式に流れよくまとまる。潤濁のバランスもよく明快である。書き出し二字やや締めすぎて余裕がない。もう少し懐抱広い表現を。
（大雲評）

総評

上野の東博で近衛家の名宝展が開かれた。行成、道風など、かなの名品はもちろん、家熙による膨大な臨書は目を見張るべきである。佐理の国申文の臨書など、ほぼそっくりと言つてもいい。しかし並べて展示されている実物の素晴らしさは比べようもない。筆力、墨の濃淡、行の揺れや布置、どれをとつてもため息の出るほどである。臨書は書家にとつて大切な行為であるが、どんなにうまくとも作品は自分のオリジナルでなければ心に響いてこない。佐理の書状は私にこう語りかけた。

今回は92点（漢26、か8、現29、篆1、前28）毎日サイズの大きさに慣れない作品も多い。1ヶ月で仕上げようとせずじっくりと取り組むことも大切である。
（蒼玄）

〈特選候補者〉

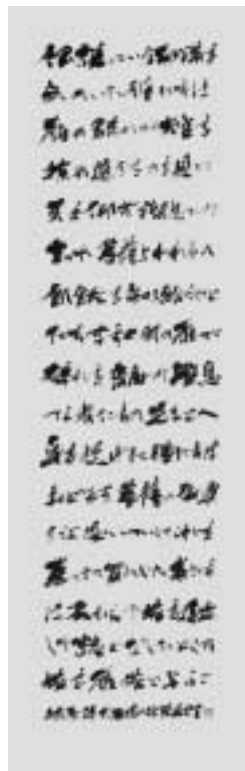
漢	一弦	木村	貴衣
〃	玄穹	土屋	光燁
〃	もく	西川	藤象
〃	墨宣	楠木	梅道
か	道	山藤	明美
〃	志引	鈴木	朝夫
〃	蒼原	熊谷	青山
現	東実	吉田	眞理
〃	游水	荒川	空華
〃	大雲	長島	僊雨
篆	墨宣	中山	無硯
前	四谷	角田	悠香
〃	詢扇	大塚	恵蘭
〃	香書	吉沼	幸子
〃	湘南	佐藤	詠子

176×35cm

現代詩文書

(うるいど)

蜜波羅 鳳雲
「大雁塔の伝説」
緑原詩



蜜波羅 鳳雲 書
170×53cm

◆横書き現代詩文書の方向として注目した。着実でしっかり紙をつかんでいる。下部少し重くなっただか？ 横書きの読み易いかなの研究さらに。(春洋評)

◆かなりの長文を安定した横書き構成した技術の高さを買う。適度な潤濁の変化が微妙なリズムを醸し、静かな中に鼓動を感じる作。(大雲評)

◆行間・字間の難しい横書きをこなし、多字数の中間だるみのない力強い表現は魅力です。さらに墨色を考慮されて、明るい作品へと試みては…？(明子評)

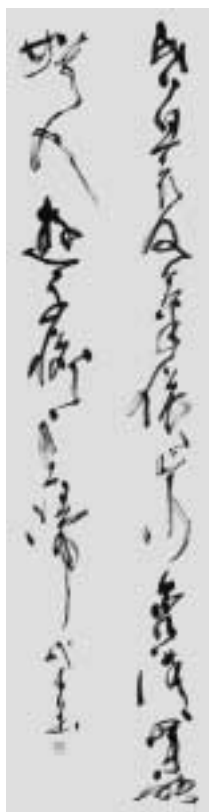
◆書く速度に一定した物をつかみ一気に制作したものが感じられる。多字数を細い変化をつけそれを意として読ませる一つの説得があるよう。(倫子評)

佐藤華炎書

漢字

(墨宣)

大川代香
「謝霊運詩」



135×35cm

大川代香書

◆ひきしめた字形で通貫した流れを醸し出して爽快な作となった。中央部の余白が広がりを感じさせてくれる。線質のくい込みがやや不足か。(大雲評)

◆流れを美しく表現一気に纏めた呼吸を感じる。筆は固めでしょうか。廻転した時に平面的になるのが一寸気になります。力の配分なのか。(倫子評)

◆歯切れよいリズムが快く響いています。多様な筆づかいと流れの美しさは現代かな作品を眺めている心地にさせられました。参考にします。(明子評)

◆よく言えば流れがリズムミカルだが、調子書き。技術におぼれて精神を忘れないように。ぼつぼつ「何を表現するか」を考える時期では。(春洋評)

現代詩文書

(炎佳) 佐藤華炎

「滝」
小池昌代の詩



136×70cm

◆墨の濃淡を巧みに表現し線に太い細い線の組み合わせとリズムミカルに表現し紙一杯を生かしている。詩を読む楽しさを与えてくれ楽しい書。(倫子評)

◆紙面の大きさを効果的に使って、墨の使い方、作品の作り方も卒なく完成された作。読みやすいのがよい。今後の現代詩文書の方向。(春洋評)

(春洋評)

◆青淡墨の宿墨の効果か、独特のじみと太細の変化が軽妙な筆致と調和して楽しいリズムミカルな作。構成も無理なく明るい気分でよい。(大雲評)

◆少し離れて観て、全体の形の柔らかさと墨つぎの箇所バランスのよさに気づき、影のような滲みが美しく墨色の研究の深さを感じます。(明子評)

(明子評)

漢字研究部
(薦季直表)

選評 大野祥雲

今月のホープ作品



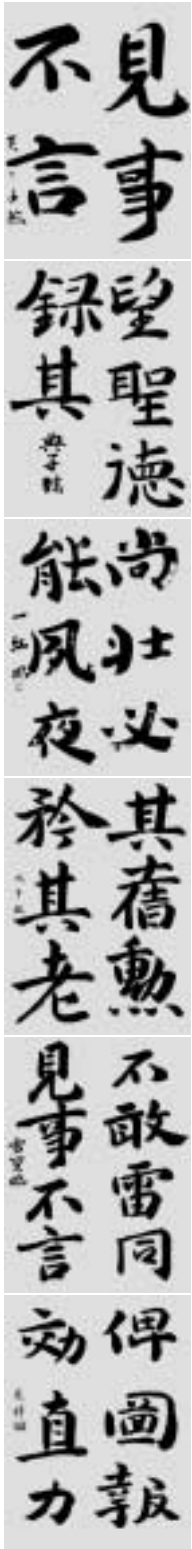
菊田杏仙

漢字研究部 特選 菊田 杏仙

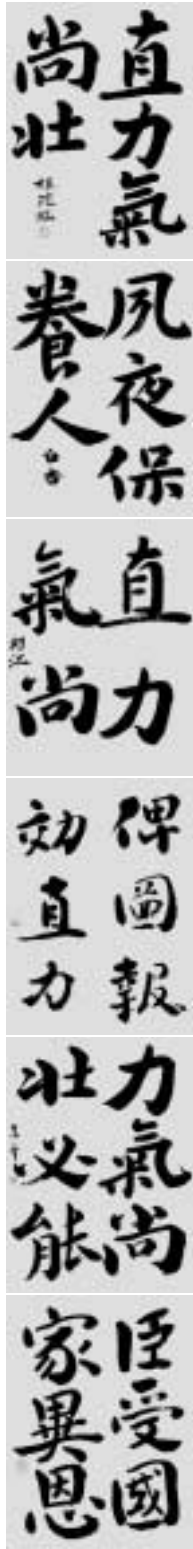
五字を堂々と臨し、落款を含めてのまじめが素晴らしい。各文字を見ても、点画のはなれ、各所にある空間、転折の丸み、線の太細など特徴を生かした明るい作品です。それに深みのある線での自然な運筆は群を抜く。

◎漢字研究部総評 薦季直表は隸書的なところもあり、楷書のルーツだと言われています。字形は総じて扁平で、懐が広くて豊か

です。また厚みのある点画には骨格があり落ち着いています。こうした特徴をくみとった上位の方の作品は、技法的にも優れ光ってました。一方、字形が縦長で背勢、臨書とは思えない作品もありました。筆を執る前にじっくり見ていただきたい。なお法帖には分かりにくい箇所もあります。字源で調べて書くことをお勧めします。



英典一悦雪 二子紅子星 祥子



桂白初 白江香 朱香苑 朱華苑



松裕祥 松美雪 妙泉 千枝子

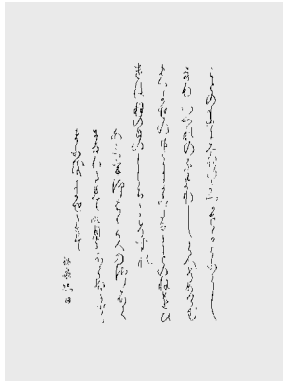


箕青紫 箕山城 良哲 玲子 泉子 翠子

かな研究部 (小島切)

選評 黒川江偉子

今月のホープ作品



内田 皓 泉

線質、用筆から見ると女性の筆といわれていますが、その筆線、流れ、全体の叙情がよく表現され、見事な秀作と思います。

◎かな研究部総評 全体によく勉強され、よい作品が多く見られましたが、中には字数の極端に少ないものもあり、折角の練習ですから、掲載部分の全臨を臨みます。

かな研究部 特選 内田 皓泉



愛嵐 信優佑 幸清益 藤 美佐枝
みどり 石泉 子子子 江子江 弘 象

かな研究部成績表

Table of members and their achievements, including names like 玉泉, 皓泉, 泉, and 子子子, and various categories like '特選' and '選定'.

〔特別昇級試験臨書課題〕

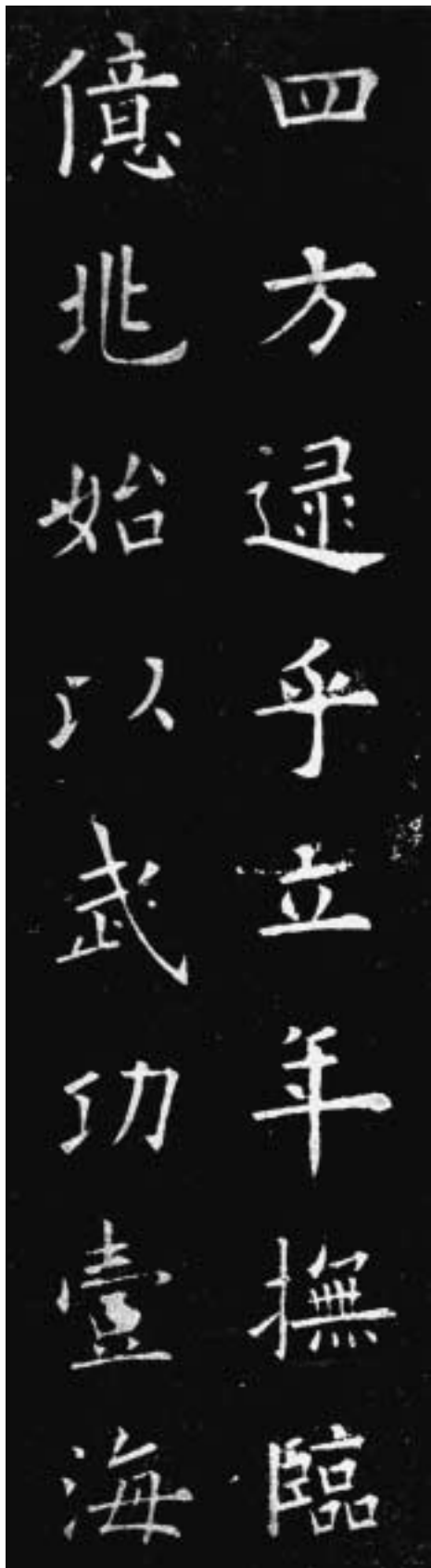
※左記の写真掲載部分の中から規定の文字数を臨書する。
掲載以外は違反となります。

九成宮醴泉銘 (楷書)

漢字部

第一種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書



四方。逮_二乎立年。撫_二臨。億兆。始以_二武功壹_二海

孟法師碑 (楷書)

漢字部

第二種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書



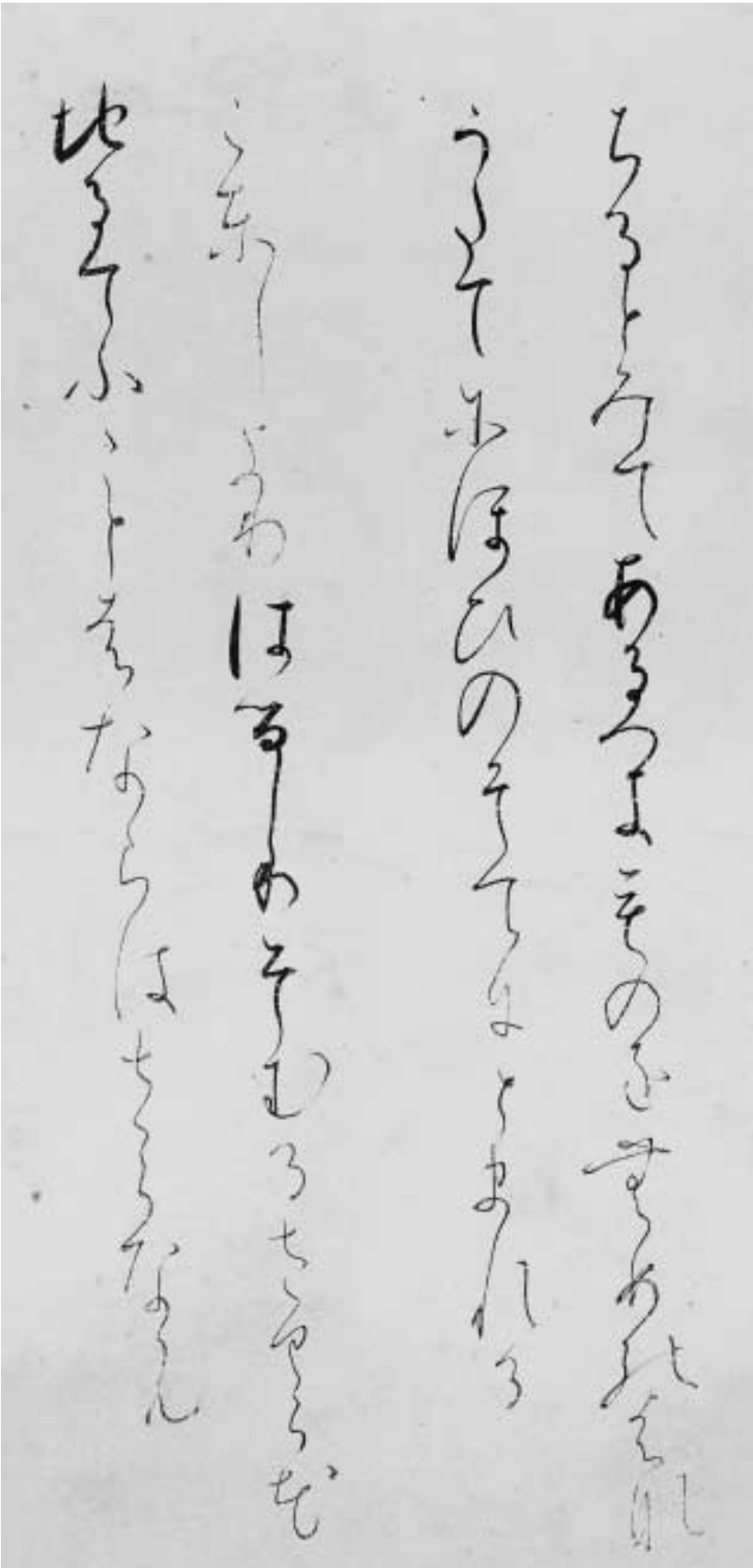
仙骨夙著。金液方授。駕_二白龍_二而不及。玉棺遽掩。

高野切第一種

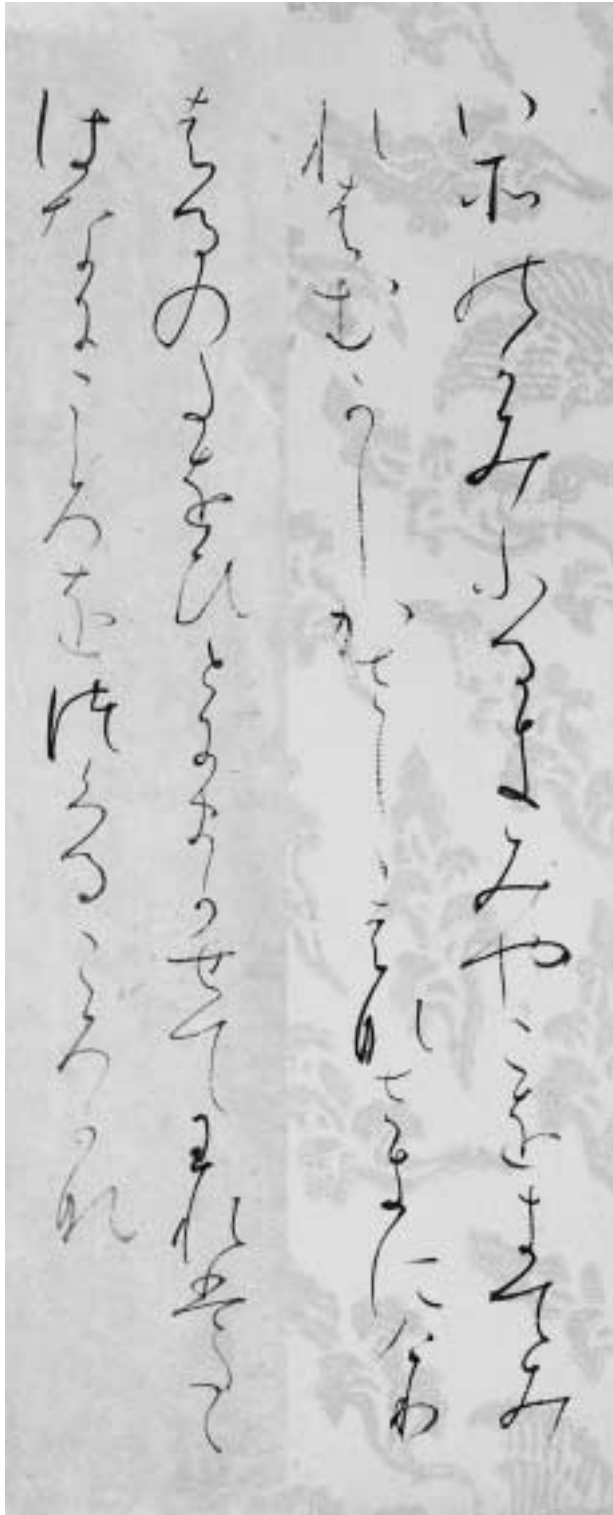
かな部

第一種

半紙に写真掲載の和歌・二首を書く(料紙可)



ちるとみてあるべきものをむめのはな／うたてにほひのそでにとまれる
東 利 留 利 支 毛 無 能 者 那 多 尔 者 尔 无
 ことしよりはるしりそむるさくら花／ちるてふことはならはざらなむ



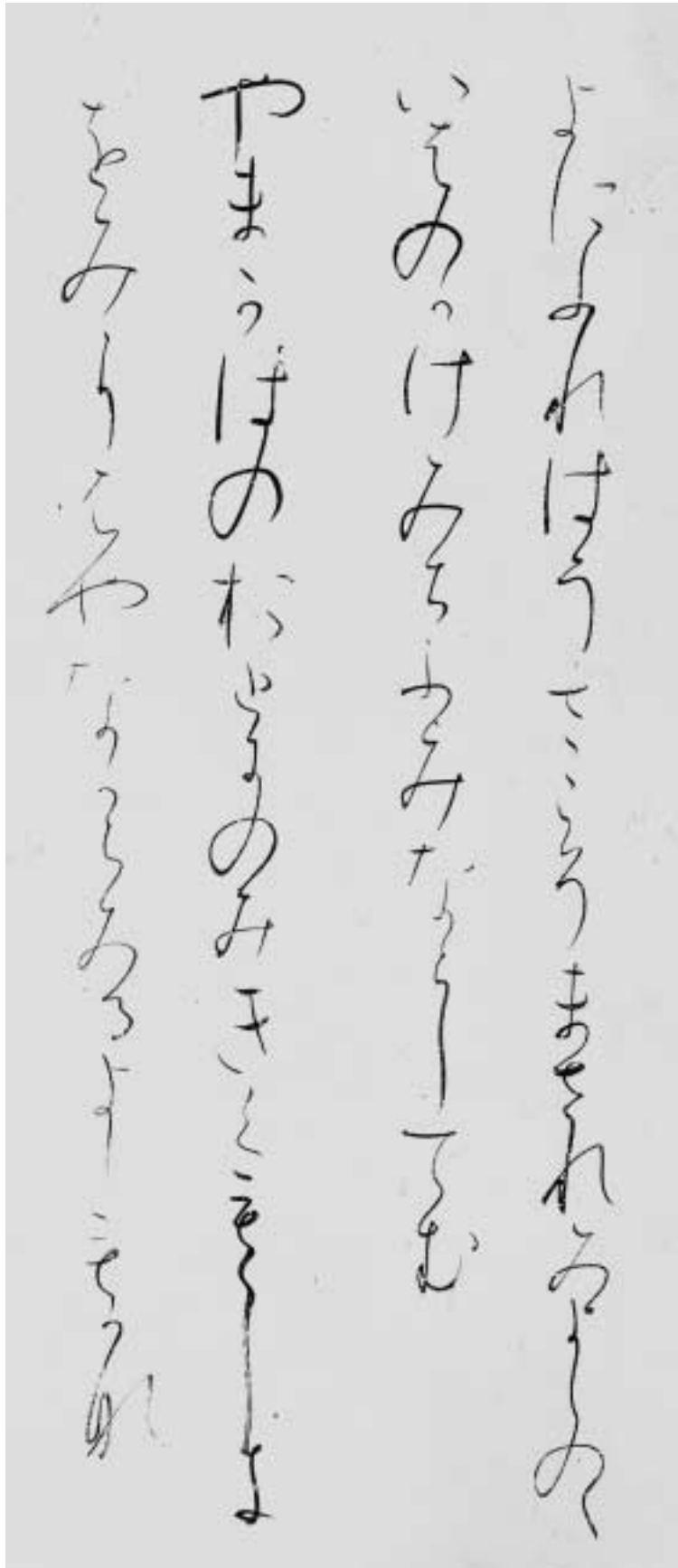
い^所の^能か^可み^支ふる^支き^支みや^支こ^支を^支きて^支み^支／^支れば^者む^可かし^可か^可ざ^可し^可は^者な^那さ^支ぎ^支に^介け^利り
 は^者る^多の^多た^多を^多ひ^多と^多に^多ま^多か^多せ^多て^多わ^多れ^多は^多た^多ゞ^多／^多は^多な^多に^多こ^多ゝ^多ろ^多を^多つ^多く^多る^多こ^多ろ^多か^多な^多

高野切第三種

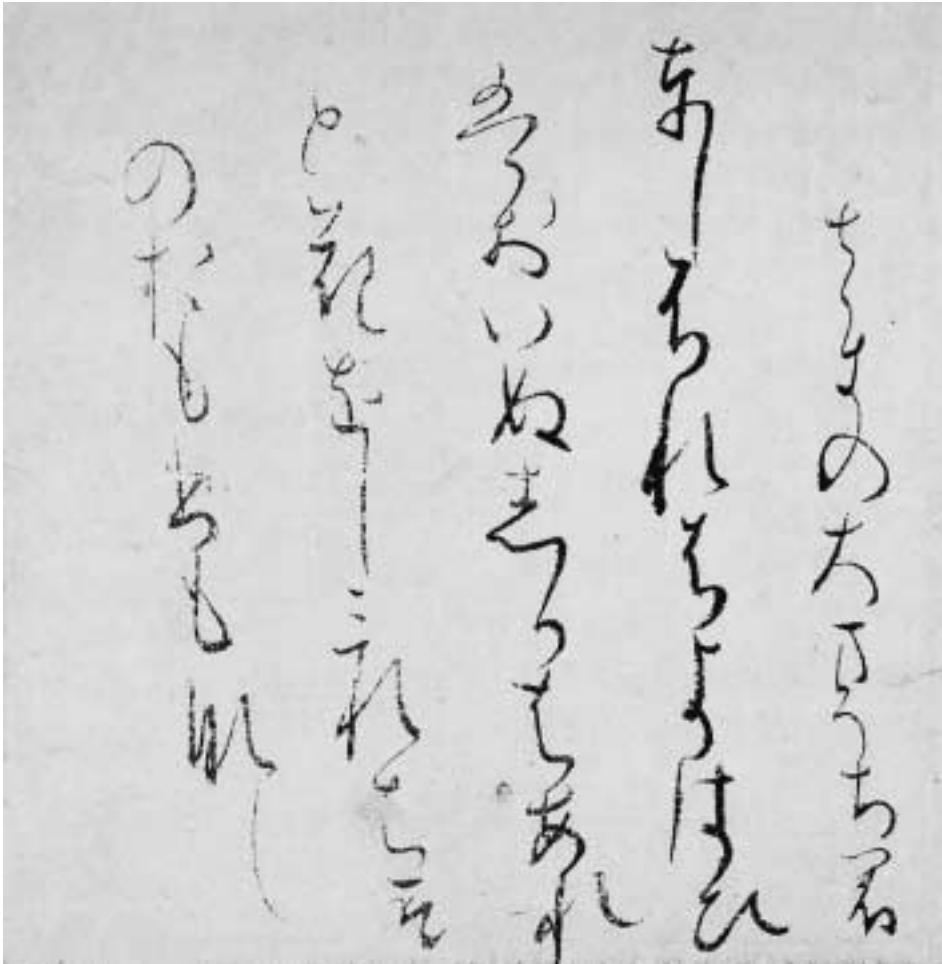
かな部

第三種

半紙に写真掲載の和歌・二首を書く(料紙可)



よにふればうさごそまなれみよしのゝいはのかけみちふみならしてむ
曾
 やまがはのおとにのみまくもゝしきをみをはやながらみるよしもがな
可 於 尔 久毛 支 平者 可 毛 可 那



(料紙可)

(たて12.7センチ×よこ12.4センチの枠を半紙に書いて、その中に書くこと)

※落款は右枠内でも枠外でもかまわない

さき^支の大^万まうち君

とし^東ふれ^不ばよ^者はひ

は^盤おいぬ^志しか^可は^者あれ

ど花^三をし^者み^毛ればも

の^於おも^悲ひ^那もなし

顏勤礼碑 (楷書)

漢字条幅部

第二種

半切に写真掲載の中から14文字を臨書



軍。類。通。悟。顏。善。隸書。太子洗馬。鄭王府司馬。並



潜莫_レ覩。在_レ智猶迷。况乎佛_レ道崇_レ虚。乘_レ幽控_レ寂。弘_三濟
万品。典_二御十方。舉_二威靈_二而_レ無_レ上。抑_三神力_二而_レ無_レ下。大_レ之

(※書譜の図版は
54ページに掲載。)

規 定 部

563. 4月20日締切

漢 字

563. 4月20日締切

か な

563. 4月20日締切

漢字条幅

563. 4月20日締切

かな条幅

563. 4月20日締切

ペン 字

563. 4月20日締切

現 代 詩

563. 4月20日締切

前 衛

研 究 部

563. 4月20日締切

漢 字 研 究

563. 4月20日締切

か な 研 究

のりしろ

(563)特別研究作品

出品該当部門に赤○印

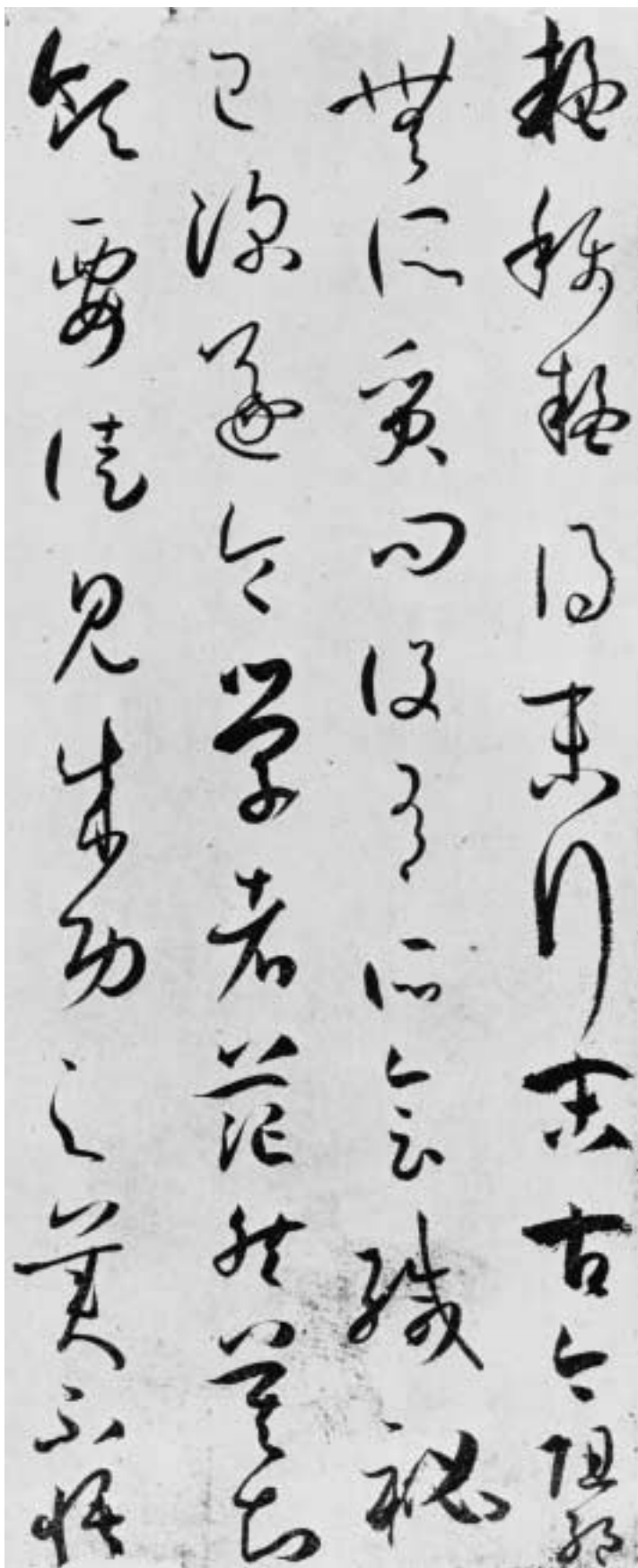
漢	か	現	篆	前	支局・支部名

書 譜 (草書)

漢字条幅部

第三種

半切に写真掲載の中から14文字を臨書



疑^ウ稱^ス疑^ヲ得^テ末^ヲ行^ヒ末^ヲ古^ク今^ノ阻^ム絶^ス無^ク所^ニ質^ヲ問^フ設^ケ有^ル所^ニ會^ス緘^シ祕^ス
 已^ニ深^ク遂^ニ令^シ下^ニ學^ブ者^ヲ茫^然莫^ク知^ル領^ス要^ヲ徒^ラ見^テ成^ス功^ス之^ヲ美^ム不^レ悟^ル

特別昇級試験

一、しめきり日 5月20日(火)

春季作品募集は、左記の通りです。

- 漢字 一種、二種
 - かな 一種、二種、三種
 - 漢字条幅 一種、二種、三種
 - かな条幅 一種、二種
 - ペン字 一種、二種
- 漢字、かな条幅、ペン字の三種は、秋季募集となります。

二、応募資格

- 一人で幾つの部にも応募できる。
- 第一種 現在級が優級、10級、新規
- 第二種 現在級が初段、3級
- 第三種 (4~10級の方は受験できない)
- 現在級が準師範、秀級 (優級以下の方は受験できない)

三、課題文字と用紙

(創作文字は新旧字体どちらでも可)

※漢字・かな・漢字条幅の臨書作品は3月号入今月号583号V写真掲載の中から〔指定文字数〕を臨書。

漢字部

半紙にて長に使用

第一種 (二枚)

楷 臨書 九成宮醜泉銘 (指定箇所より4文字を臨書)

第二種 (計一枚)

かな部

半紙にて長に使用 (料紙可)

第一種 高野切第一種

かな部創作は、かな・漢字変更自由

(半紙一枚に指定の歌を二首書く)

第二種 (計二枚)

臨書 和漢朗詠集 (半紙一枚に指定の歌を二首書く)

創作 百濟野の萩の古枝に春待つと居りし鶯なきにけむかも (山部赤人)

第三種 (計三枚)

臨書 高野切第三種 (半紙一枚に指定の歌を二首書く)

臨書 寸松庵色紙 (半紙一枚に指定の歌を一首書く)

創作

・別紙を裁断して貼付は不可。

・落款は右枠内・外どちらでも可。

・たて12.7cm×よこ12.4cmの枠(原寸の大きさ)を半紙に書いてその中に書くこと。

漢字条幅部

小画仙紙半切にて長に使用

第一種 (一枚)

楷または行 創作 無心得良悟 (夢麟)

物事に無関心にして初めて物の道理を悟ることができる。

第二種 (計一枚)

楷 臨書 顔勤礼碑 (指定箇所より14文字を臨書)

行 創作 寒食杏花山店酒 春風楊柳寺門船 (董湖)

第三種 (計二枚)

楷 創作 夢回春草地塘外 詩は梅吹く細雨の中にある。

行 臨書 集王(字) 聖教序 (指定箇所より20字を臨書)

かな条幅部

小画仙紙半切にて長に使用 料紙可

第一種 (一枚)

創作 春寒や砂より出でし松の幹 (高浜虚子)

創作 引く波の跡美しや桜貝 (松本たかし)

第二種 (計二枚)

創作 霧雨のこまかにかかる猫柳 つくづく見れば春たけにけり (北原白秋)

ペン字部

はがきの大きさ白紙にて長に使用 用黒インク使用

第一種 楷 (一枚)

第二種 楷・行 (計二枚)

江碧鳥逾白 江碧にして鳥逾いよ白く

山青花欲然 山青くして花燃えんと欲す

今春看又過 今春看すまた過ぐ

何日是歸年 何れの日は是れ帰年ならん

第二種 楷・行 (計二枚)

何日 是 歸年 (帰) 絶句(杜甫)

歸(帰) どちらでもよい(大字の本文のみ書く)

四、名前のかき方

◎どの部も氏名または名、号を書く。印だけでは失格、特になか・ペン字は注意のこと。

五、受験料

- 第一種 一、〇〇〇円
 - 第二種 二、〇〇〇円
 - 第三種 三、〇〇〇円
- ◇昇級試験用振替口座、または現金書留で納入。

六、審査結果と昇級

成績に応じて、次の通り昇級させる。

- 第一種は、最高秀級まで
- 第二種は、最高二段まで
- 第三種は、最高師範まで

七、応募手続

- 1 出品票はバーコード出品券を使用。作品の右下に、一枚毎につける。(三種には三枚つける)
- 2 現段級とは584号(4月号)の段級。作品二枚以上ある時は、右上をホチキスまたはのりでとめる。
- 3 支部の方は、名簿形式にします。受付番号をいれ、お送りします。
- 4 個人で受験希望の方は、①受験の申し込みをする
- ②申し込み先
 - 〒101-0031 千代田区東神田1-16-1
 - 7 芝崎ビル三階 勸書道芸術院 書道芸術編集部・特別昇級試験係(宛)

・80円切手貼付、住所、氏名明記の返信用封筒を同封のこと。

・受験番号を記入した個人専用の応募書類を送付します。

◎送付された応募書類に必要事項記入の上、作品に添え応募する。

備考

・受験申込み締切りは4月30日。

・応募書類は5月1日以後に発送。